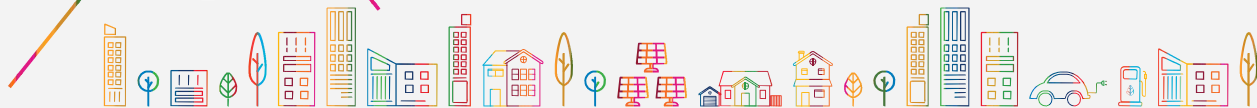


富士市SDGsの課題と取り組み



5 ジェンダー平等を
実現しよう



目標 5

ジェンダーの平等を達成し、
すべての女性のエンパワーメントを図る

富士市の課題

今の社会では男性の役割・女性の役割など、個人ではなく「性別」によって生き方や働き方が決められてしまうことがあります。「女は女らしく、男は男らしくあるべき」といった性別による価値観も多くの人の意識の中に根強く残っているのが現状です。身体の性別ではなく、こうした社会的・文化的に作られた性別のことをジェンダーと言います。「ジェンダー平等」とは、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆるものごとを一緒に決めることを意味しています。日本は世界各国に比べて、特に政治・経済の中で何かを決める場に、女性と男性が同じように参加したり、リーダーになることができていなくて、先進国では最低レベルとなっています。共働き世帯が主流となっている社会状況の中、性別による役割分担により、家事や子育てといった家族の世話は、ほとんど女性が行っています。女性は働きながら家事・育児の負担を抱え、仕事を諦める人もいます。男性にとっても、長時間労働によって家事・育児への参加の機会が奪われていきます。一人ひとりが個性や能力を最大限に発揮でき、性別にとらわれず自分の望む生き方を選択できる社会をつくるため、こうした性別による固定観念や役割分担意識にとらわれないことが大事だと市民に気づいてもらう必要があります。



男女共同参画の視点からのキャリア教育授業

富士市の取り組み

富士市の男女共同参画においては、私も男女共同参画審議会の会長として、男女共同参画プランの策定や、男女共同参画を推進するための市の事業や取り組みにおいて、各所管課の担当者と意見を交わすなど、富士市の取り組みに関わってきました。富士市の特徴としては、市民主導で市の男女共同参画条例を制定するなど、男女共同参画を推進する市民団体が多くあり、高い問題意識をもち非常に積極的な活動を展開しており、行政と協働しながら取り組みを行っています。また、行政も他都市に無い取り組みとして、地区推進員による各地域に根差した地道な活動を展開しており、富士市ならではの取り組みだと思えます。また、小中学校において、性別によって将来の職業選択を狭めることがないよう、男女共同参画の視点からのキャリア教育授業を実施しており、子どもたちの将来の進路や職業選択に夢や可能性を広げる取り組みとなっています。

ほかにはパートナーシップ宣誓制度を県内2番目に導入する等、性の多様性理解促進への取り組みも意欲的に取り組んでいると思えます。



静岡県立大学
男女共同参画推進センター長、国際関係学部 教授

犬塚 協太

富士市男女共同参画審議会の会長を務めています。これまで、男女共同参画プランの策定や計画の実施にも専門分野の立場から様々な形で協力しています。近年では、富士市の職員研修において、「男女共同参画講座」の講師も務めています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS